

CT検査の医療被ばくに関する説明書

CT検査は、放射線（X線）を使用して体の中の構造や病変の広がり・性状を詳しく調べる検査です。放射線を用いるため、放射線被ばくによる以下の影響が生じる可能性があります。被ばくによる不利益よりも、検査によって得られる利益の方が十分に大きいと判断される場合に実施します。

放射線被ばくに関する危険性と当院の取り組み

- ・ 100 ミリシーベルト（mSv）以上の被ばくでは、被ばく線量の増加とともに、発がんリスクは上昇します。しかし 100mSv 未満の被ばくでは、明らかな発がんリスクの上昇は認められていません。（確率的影響）
- ・ 100mSv 未満の被ばくでは、脱毛や皮膚障害など明らかな影響を認めることはありません。（確率的影響）
- ・ 診断を目的とした通常のCT検査では、1回の被ばく線量が 100mSv を超えることはありません。
- ・ 当院では、診断に必要な画像を可能な限り少ない線量で検査をするよう努めています。これらは、医療被ばく研究ネットワーク（J-RIME）より提示されている指標（診断参考レベルDRLs）を参考に検討を行っております。
- ・ お子様の場合は体格を考慮して大人よりも少ない放射線量で検査をしています。

診断参考レベル（DRLs 2020）

成人CTの当院CT検査と「診断参考レベル」での推定被ばく線量の比較

検査	実行線量（mSv）	CTDIvol（mGy）[診断参考レベル]	DLP（mGy・cm）[診断参考レベル]
頭部	1.9	35.6 [77]	891 [1350]
胸部	6.0	9.2 [13]	430 [510]
胸部～骨盤	12.7	11.7 [16]	848 [1200]
上腹部～骨盤	7.8	10.4 [18]	521 [880]